

## 私の豊橋での3年

私と豊橋技術科学大学との縁は、1991年12月から始まって今まで続いています。

当時豊橋技術科学大学に関しては韓国内であまり知られていなかったため、大学のレベルや研究施設など何も分かりませんでした。それでも私は指導教官だった故中村先生と石田先生のところで、夢中だった圧力センサの研究をしたいという希望だけで豊橋技術科学大学への入学を決めました。その時の中村-石田研究室ではあまり広くないものの、クリーンルームにトランジスタが作れる程度の半導体工程装置が設置されており、半導体関係の工程はほとんど可能な状態で、毎日外部から見学者が来ていました。

当時、研究室での話題は、スペースシャトルに乗って宇宙に行ってきた鯉の話で、鯉の頭に移植した生体信号処理用集積回路を豊橋技術科学大学で製作したということでした。私を始めとして学生たちは、その研究成果に対する自負心を持っており、自分たちも立派な研究成果を出したいという気持ちでみんな研究に集中したと思います。

今考えてみると豊橋技術科学大学での思い出というのは24時間消えない研究室の明るい電灯と、その中を忙しく動いている学生たちの姿です。その時徹夜しながら一緒に研究した日本人学生といろいろな国の留学生たちは、今卒業してみんな日本と自分の国の様々な分野で中心的な役割を果たしています。

豊橋技術科学大学出身で現在韓国に戻って大学、国立研究所及び大企業の研究所などで活躍する人は年々増加しており、私が豊橋技術科学大学に初めて行った1991年度と比べれば韓国国内での知名度はかなり上がっています。今は韓国の大学だけではなく大企業からの関心が高まっています。実際、豊橋技術科学大学を訪問する韓国からの訪問者や、修士や博士課程への入学を希望する留学生の数の増加を見れば明らかだと思います。

私が豊橋技術科学大学の博士課程を修了して韓国に戻ってからももう8年目になりますが、今も豊橋技術科学大学の石田研究室と固体機能デバイス研究施設を中心とした共同の研究活動が続いています。それは、豊橋技術科学大学の外部から

の研究員に対する開放的な考え方や卒業生に対する心遣いの結果だと思っています。私は豊橋にいた3年間だけではなく、韓国に帰って8年目になる今も豊橋技術科学大学からいろんな専門知識を学ぶ機会があることをいつも有り難く思っています。

現在、科学技術の発展の速度が極めて速くなって来ており、産業現場の専門家も専門分野の知識の変化に能動的に対処しなければなりません。従って、専門分野に対する勉強は卒業後も続けなければならないと思います。また、今はトータルエンジニアリング (total engineering) といって、工学の各分野の境界が曖昧になっている状況で、エンジニアは自分の分野だけではなく工学の全分野と生物、化学、医療、経済など広い範囲の知識を習得しなければなりません。そうすると、卒業した人たちはどこからこのように多様な専門知識を得たら良いのでしょうか？ 私は先ず自分が卒業した大学を頼ることが一番効果的だと思います。今韓国でも、卒業した学生に対する大学の再教育の義務化に関する話が話題になっています。私だけではなく豊橋技術科学大学を出た大勢の日本人と外国人の卒業生が、自分の会社や研究所、そして大学などで行っている開発、或いは、研究上の問題点を豊橋技術科学大学と一緒に解決していることから、豊橋技術科学大学は卒業生の再教育もかなり充実していると思います。

現在、豊橋技術科学大学は日本だけではなく、世界的に教育と研究分野でかなりの影響を及ぼす大学として既に成長しています。これからも今までのように頑張っていただきたいと思います。勿論豊橋技術科学大学を卒業して日本と外国の産業の現場で働いている私たちも頑張りたいと思います。

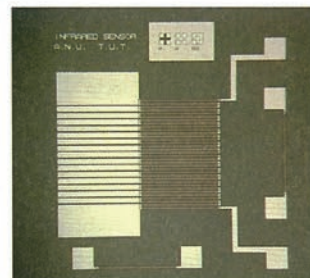
私と豊橋との縁はこれからも続くと思います。今後も日本と韓国の科学が緊密に連携し、互いに一層発展することを期待します。



安東大学校

李榮泰 (イヨンテ)

(電子・情報工学専攻修士)



現在豊橋技術科学大学と共同研究で開発している半導体赤外線センサ